

「特別養護老人ホームにおける医療的ケアに関する実態調査」の概要

1. 調査期間、回答数

平成20年9月～10月にかけて、特別養護老人ホーム6,083施設に調査票を送付し、3,370施設(55.4%)から有効回答を得た。

2. 回答施設の概要(1施設あたり)

入所定員数 69.3人 (入所者数 68.2人) 平均要介護度 3.84
 医師常勤換算数 0.23人 看護師常勤換算数 2.35人 准看護師常勤換算数 2.37人
 介護福祉士常勤換算数 16.0人 介護福祉士以外の介護職員常勤換算数 15.2人

看護職員の体制について

- 看護職員が勤務している時間帯別の施設数(3,323施設中) ※注:時間帯の半分以上を勤務している場合に回答
 6:00～8:59…1,175施設(35.4%)、9:00～16:59…3,316施設(99.8%)、17:00～19:59…1,870施設(56.3%)、
 20:00～21:59…112施設(3.4%)、22:00～5:59…87施設(2.6%)
- 夜間の体制(3,327施設中)
 必ず夜勤の看護職員がいる…55施設(1.7%)、必ず宿直の看護職員がいる…19施設(0.6%)
 看護職員がいる時間といない時間がある…187施設(5.6%)
 看護職員が状態に応じて勤務することがある…359施設(10.8%)
 オンコールで対応する…2,525施設(75.9%)
 特に対応していない…127施設(3.8%)、その他…55施設(1.7%)

3. 結果の概要

- 1) 実施頻度の高い医療的ケアは、「服薬管理(麻薬の管理を除く)」74.6%、「経鼻経管栄養及び胃ろうによる栄養管理」9.9%、「吸引」5.3%、「創傷処置」4.6%、「浣腸」3.7%、「摘便」3.7%となっている(複数回答)。
- 2) 処置の実施頻度の高い処置の中で、夜間(22:00～5:59)に実施される人数が多い処置は、服薬管理(麻薬の管理を除く)、胃ろうによる栄養管理、吸引(咽頭手前までの口腔内)・(鼻腔)・(咽頭より奥又は気管切開)である。
- 3) 吸引について
 - ・吸引が必要な入所者のうち、「咽頭手前までの口腔内」の実施人数の割合は、87.0%、「鼻腔」は51.8%、「咽頭より奥・気管切開」は31.1%である。
 - ・実施時間は、6時～8時、11時～12時、16時～18時と食事前の時間で増加傾向にあり、22:00～5:59においては、全回数の2割が実施されている。
- 4) 経管栄養について
 - ・胃ろうによる栄養管理・経鼻経管栄養の実施回数は3回/日が最も多い(95%)。
 - ・実施時間では、9:00～16:59の日勤帯で70%以上実施され、20:00～5:59の時間帯では10%以下で実施頻度が低い。

1 特別養護老人ホーム入所者への処置の状況

① 入所者の処置項目ごとの実施割合

○特別養護老人ホーム入所者に対して実施された処置の実施割合では、服薬管理、胃ろう・経鼻経管栄養、吸引が高い。

特別養護老人ホーム在所者の施設内での処置の実施率(2,946施設中)
入所者全体に対する医療処置別の処置を受けた入所者(延べ人数)の割合

回答のあった2946施設中
N=200,644(人数)

処置		割合(%)	処置	割合(%)
服薬管理(麻薬の管理を除く)		74.6	創傷処置	4.6
			浣腸	3.7
胃ろう・経鼻経管 栄養	胃ろうによる栄養管理 7.7%	9.9	摘便	3.7
	経鼻経管栄養 2.2%		じょく瘡の処置(I度・II度)	2.7
吸引	咽頭手前までの 口腔内 *4.4%	5.3	膀胱(留置カテーテル)の管理	2.7
	鼻腔 *2.6%		インスリン注射	1.3
	咽頭より奥又は 気切 *1.6%		疼痛管理(麻薬の使用なし)	1.1

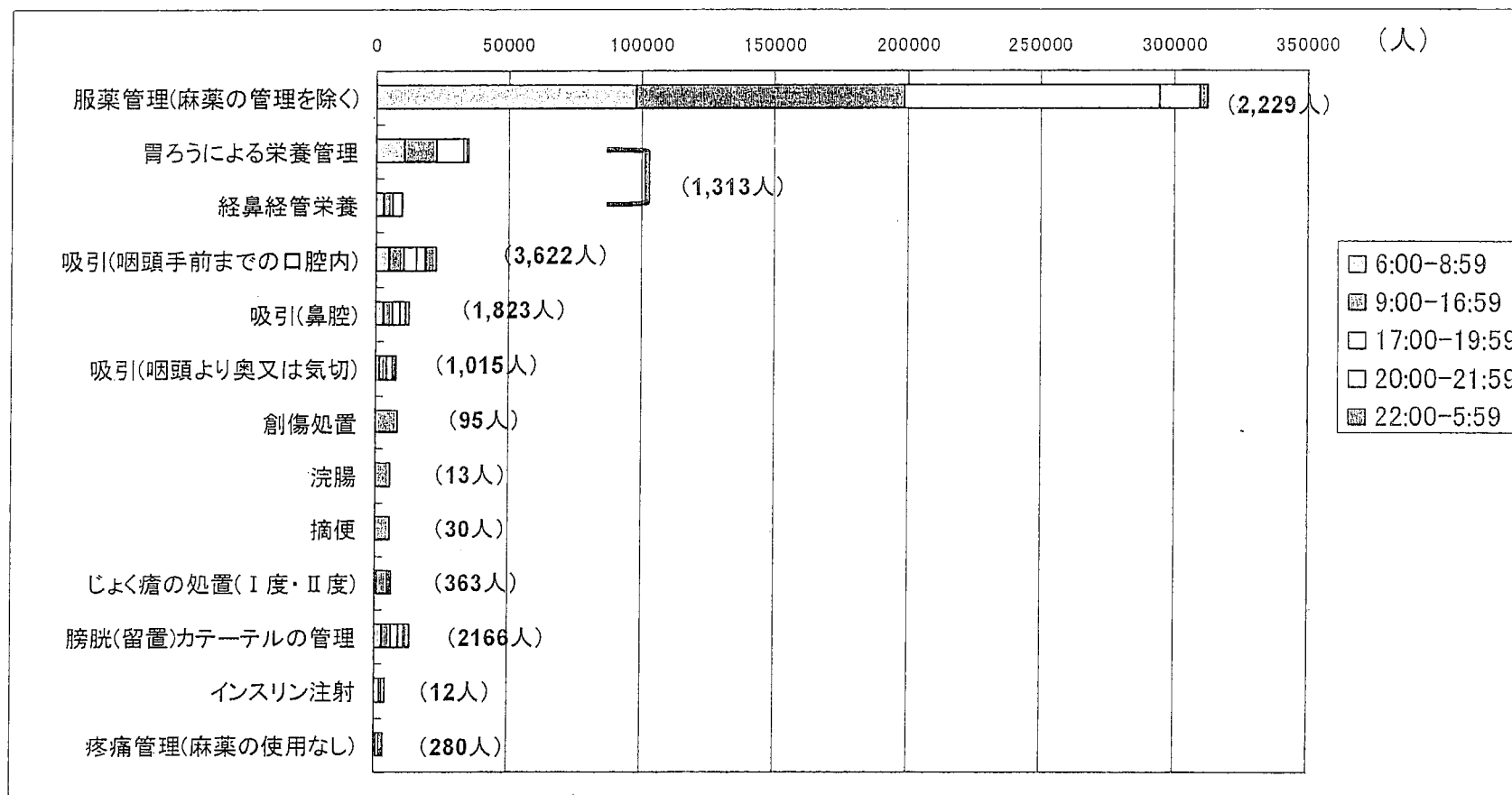
※この表は入所者全体に対して実施された入所者の割合が1%以上の医療的ケアを抜粋

*:吸引の実施部位間での重複がある

1 特別養護老人ホーム入所者への処置の状況

② 時間ごとの処置の実施者数及び頻度

○ 処置の実施頻度の高い処置の中で、夜間(22:00~5:59)に多く実施される処置は、服薬管理(麻薬の管理を除く)、胃ろうによる栄養管理、吸引(咽頭手前までの口腔内・鼻腔・咽頭より奥又は気管切開)である。
 ○吸引(咽頭手前までの口腔内・鼻腔・咽頭より奥又は気管切開)については夜間(22:00~5:59)に実施される割合が高い。



※実施人数は延べ人数

※()内は、22:00-5:59の間の実施人数

2 服薬管理における職員の連携・協働の状況

- 「薬の仕分け、セット」については、看護職員が実施すべき行為であるとされているところ。
 ○「薬の仕分け、セット」は、約80%が看護職員のみで対応しており、看護職員と介護職員で連携・協働している割合は低い。

(%)

処置 (n=施設数)	過程	実施職員		
		看護職員	看護職員 +介護福祉士	看護職員 +介護福祉士 +その他の介護職員
服薬管理 (麻薬の使用を除く) (n=2,993)	薬の仕分け、セット	79.6	3.9	3.0
	内服薬の介助	32.3	23.9	35.9
	座薬の与薬・介助等	42.8	17.7	22.0
	外用薬の塗布・介助等	39.1	21.2	31.1
	記録、後片付け	47.9	16.4	25.2

3 吸引及び経管栄養における施設ごとの処置の実施入所者数の割合

- 吸引については、例えば口腔内の吸引を実施している入所者の割合が10%未満である施設は、全施設の50%以上であり、多くの施設で比較的少数の入所者に対し実施されている実態がある。
- 経管栄養についても、実施している入所者の割合が10%未満である施設は、経鼻経管栄養は約34%、胃ろうによる栄養管理は約53%であり、多くの施設で比較的少数の入所者に対し実施されている実態がある。

N=3,370(施設数)

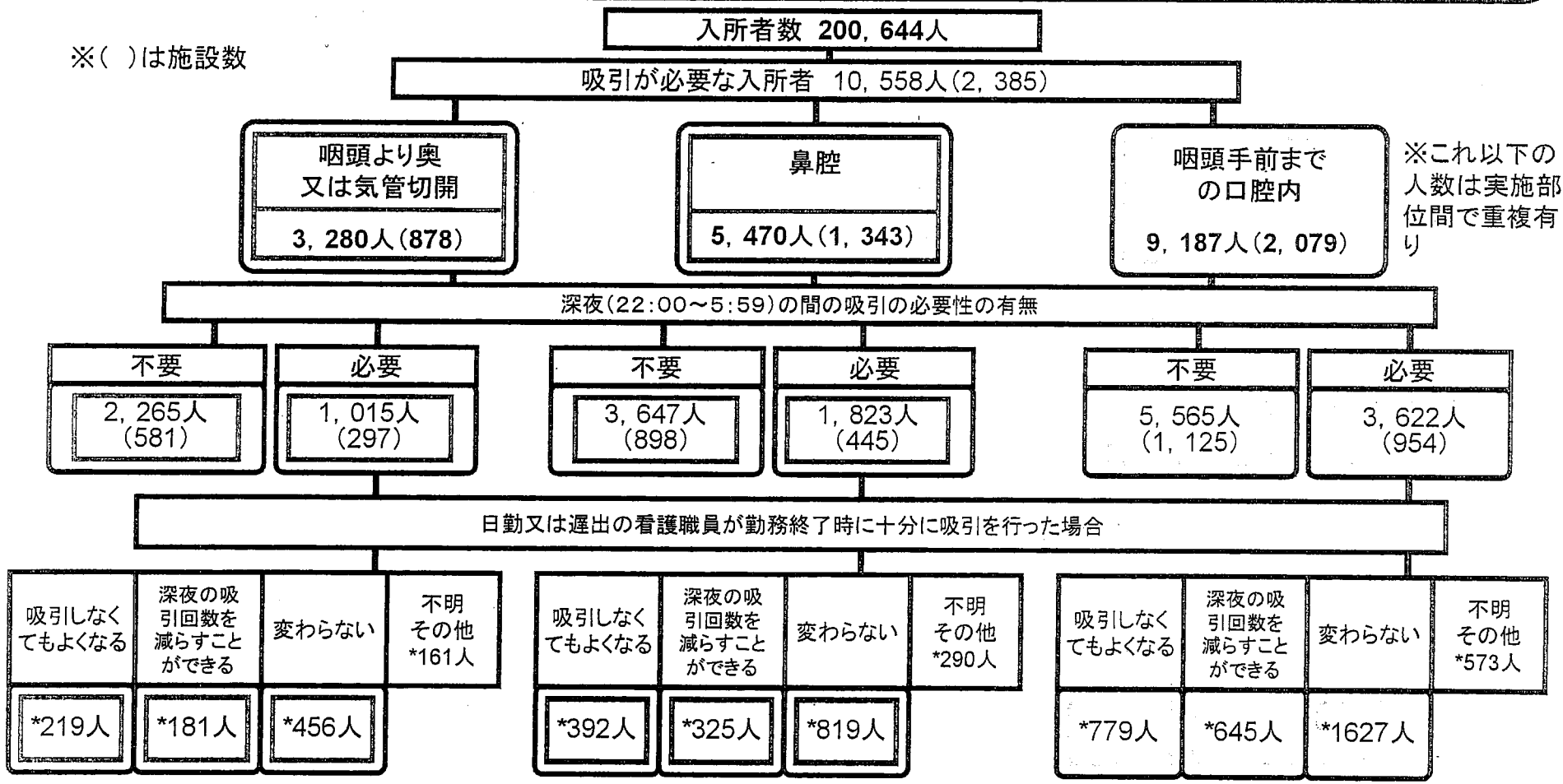
		実施してい ない	10% 未満	10~ 20%未満	20~ 30%未満	30~ 40%未満	40~ 50%未満	50% 以上
吸引	口腔内	956 32.5%	1543 52.4%	352 12.0%	76 2.5%	14 0.5%	1 0.0%	4 0.1%
	鼻腔	1,657 56.2%	1039 35.2%	190 6.5%	47 1.6%	8 0.3%	3 0.1%	2 0.1%
	咽頭奥気切	2,104 71.4%	700 23.8%	113 3.8%	25 0.8%	3 0.1%	0 0.0%	1 0.0%
経管 栄養	経鼻	1,734 58.9%	1015 34.4%	166 5.7%	22 0.7%	8 0.3%	1 0.0%	0 0.0%
	胃ろう	370 12.6%	1575 53.4%	815 27.7%	160 5.5%	21 0.7%	1 0.0%	4 0.1%

※割合は(全施設数-無回答数)で除したもの

4 吸引 ①吸引を必要とする入所者の態様

○吸引の必要な者は、全入所者中10,558人(2,385施設)
 ○そのうち「咽頭手前までの口腔内」9,187人、「鼻腔」5,470人、「咽頭より奥又は気管切開」3,280人
 ○日勤又は遅出の看護職が勤務終了時に十分に吸引を行っても、深夜帯に吸引が必要な者は「咽頭手前までの口腔内」2,272人、「鼻腔」1,144人、「咽頭より奥又は気管切開」637人となっている。

※()は施設数

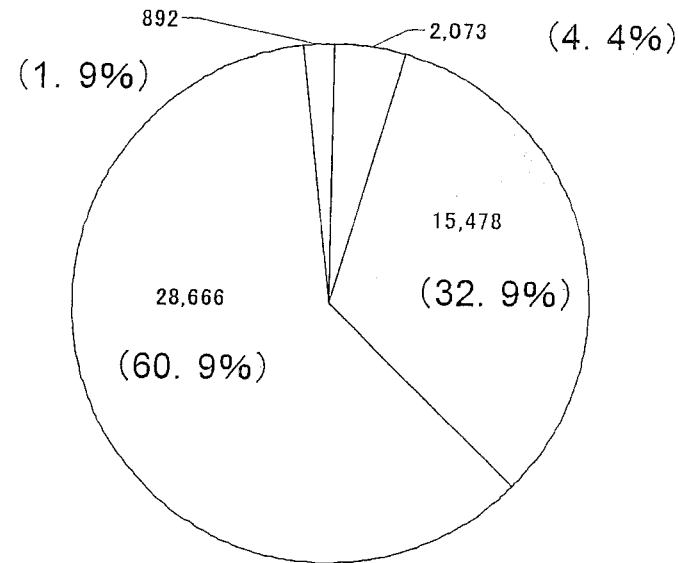


*: 問により回答数が異なるため割合から人数を算出

※数値は切り上げとしているので内訳の合計が総数に合わない場合もある。

②「吸引」の目的

○ 吸引の目的で、最も多いのは、喀痰の除去で、約60%であり、次いで、唾液等の除去(約30%)である。



(N=47,109) (単位:人)

□ 食物残渣等を除去 □ 唾液等を除去 □ 喀痰を除去 □ 不明

項目		実人数	延べ人数	吸引の目的			
吸引の有無	有	9611人		a 食物残渣等を除去	b 唾液等を除去	c 喀痰を除去	不明
吸引の範囲	A 口腔内		21,614人	1,426人	10,362人	9,365人	461人
	B 鼻腔		12,663人	353人	3,807人	8,301人	202人
	C 咽頭より奥・気切		12,388人	252人	1,149人	10,758人	229人
	不明		444人	42人	160人	242人	0人
	計(人)		47,109人	2,073人	15,478人	28,666人	892人

③「吸引」の時間帯別の実施状況

- 吸引が必要な者9,183人の1日あたりの吸引総回数は51,261回(平均5.6回)
- ・9時～17時までの日勤帯に実施される回数は20,945回(40.9%)
 - ・6～9時まで、17時～22時に実施される回数は合わせて19,732回(38.5%)
 - ・22時～翌朝6時までの深夜帯に実施される回数は10,584回(20.6%)

○1日に実施している実施回数の分布

N=9,183(実人数)

	実人数	延べ回数	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時
計(回)	9183	51261	2614	2420	3056	2635	2481	3282	3389	1790	2169	2164	3035
時間帯における総回数			8090				20945						
時間帯における割合			15.8%				40.9%						

	実人数	延べ回数	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	0時	1時	2時	3時	4時	5時		
計(回)	9183	51261	3295	2723	1865	1953	1806	1390	1363	1625	1000	1227	1100	1315	1564		
時間帯における総回数			11642					10584									
時間帯における割合			22.7%					20.6%									

④「吸引」の時間帯別の実施施設数等

○回答のあった全施設の中で、「咽頭手前までの口腔内の吸引」の実施施設は、61.7%。

○時間帯では、9:00～16:59の日勤帯が多く、次いで6:00～8:59、17:00～19:59と看護職員が勤務時間を調整することにより対応可能な時間となっている。

○さらに「吸引」が必要な者の内、看護職員が日勤又は遅出の職員が勤務終了時に十分な吸引を実施すれば21.5%は次の早出又は日勤帯まで吸引を実施しなくてもよくなり、17.8%は吸引回数を減らすことが可能であり、対応が必要な施設を減らすことが可能となる。

○時間帯別実施状況

N=3,370(施設数)

吸引部位と実施施設数		6:00～8:59	9:00～16:59	17:00～19:59	20:00～21:59	22:00～5:59
咽頭手前までの口腔内 2,079施設(61.7%)	施設数(全施設数に対する割合)	1,142(33.9%)	1,485(44.1%)	1,194(35.4%)	948(28.1%)	954(28.3%)
	1施設当たりの実施者数(実人数)	3.97人	4.03人	3.86人	3.71人	3.80人
鼻腔 1,343施設(39.9%)	施設数(全施設数に対する割合)	637(18.9%)	984(29.2%)	732(21.7%)	424(12.6%)	445(13.2%)
	1施設当たりの実施者数(実人数)	3.91人	3.83人	3.79人	4.12人	4.10人
咽頭より奥又は気管切開 878施設(26.1%)	施設数(全施設数に対する割合)	464(13.8%)	689(20.4%)	538(16.0%)	291(8.6%)	297(8.8%)
	1施設当たりの実施者数(実人数)	3.38人	3.52人	3.43人	3.35人	3.42人

○看護職員が日勤又は遅出の職員が勤務終了時に十分に吸引を行った場合 回答のあった2,385施設中 N=10,558(人数)

- ・次の早出又は日勤帯まで吸引を実施しなくてもよくなる(21.5%)
- ・次の早出又は日勤帯まで吸引回数を減らすことができる(17.8%)
- ・次の早出又は日勤帯まで吸引回数はあまり変わらない(44.9%)

⑤吸引の所要時間、職員の連携・協働の状況

- 「吸引を実施するまでの準備時間」「実際に入所者に対し吸引を実施する時間」「吸引が終了し、後片付けに要する時間」は、「咽頭手前までの口腔内」「鼻腔」「咽頭より奥又は気管切開」といった部位による時間に大きな差は生じていない。
- 「咽頭手前までの口腔内」の吸引においては、看護職員と介護職員とが協働して実施している割合は70%を超えている。
- 一方、「鼻腔」からの吸引、「咽頭より奥又は気管切開」における吸引は、看護職員が実施している割合は、「鼻腔」で50%、「咽頭より奥又は気管切開」で60%を超えており、協働して実施している割合よりも高い。

○プロセス毎の平均所要時間と協働の状況

プロセス	咽頭手前までの口腔内 (n=2407)			鼻腔 (n=1763)			咽頭より奥又は気管切開 (n=1210)					
	1人1回当たりの平均 所要時間(分)	① (%)	② (%)	③ (%)	1人1回当たりの平均 所要時間(分)	① (%)	② (%)	③ (%)	1人1回当たりの平均 所要時間(分)	① (%)	② (%)	③ (%)
吸引を実施するまでの準備時間	2.0	20.6	31.7	44.9	2.0	55.9	18.0	22.1	2.0	62.1	12.9	20.2
実際に入所者に対し吸引を実施する時間	1.6	21.3	30.2	43.3	1.6	59.0	16.3	20.2	1.9	64.7	11.5	18.9
吸引が終了し、後片付けに要する時間	2.7	21.2	29.5	43.1	2.7	55.9	17.1	21.8	2.6	62.5	12.0	20.6

※ ①;看護職員のみが実施 ②;看護職員+介護福祉士で実施 ③;看護職員+介護福祉士+その他の介護職員で実施

5 経管栄養

①「胃ろうによる栄養管理、経鼻経管栄養」の実施状況

- 胃ろうによる栄養管理・経鼻経管栄養の実施施設の割合は、それぞれ79.9%、37.4%である。
- 1日の食事時間は2~3回となっている。
- 実施時間では、一般的な食事時間と同様に朝食、昼食、夕食の時間で70%以上実施されている。
- なお、20:00~5:59の間では10%以下であり、頻度が低い。

○胃ろうによる栄養管理及び経鼻経管栄養の実施状況

	実施している施設数(3,370施設中)	実施人数
胃ろうによる栄養管理	2,691施設(79.9%)	16,227人
経鼻経管栄養	1,259施設(37.4%)	4,558人

○胃ろうによる栄養管理及び経鼻経管栄養の回数

	1回	2回	3回	4回以上
胃ろうによる栄養管理 (N=18,531)回答のあった3008施設中	1,008人 (5.4%)	5,213人 (28.1%)	11,343人 (61.2%)	967人 (5.2%)
経鼻経管栄養 (N=5,171)回答のあった2010施設中	240人 (4.6%)	1,450人 (28.0%)	3,222人 (62.3%)	259人 (5.0%)

○胃ろうによる栄養管理及び経鼻経管栄養の実施時間

		N=3,370(施設数)				
		6:00~8:59	9:00~16:59	17:00~19:59	20:00~21:59	21:59~5:59
胃ろうによる栄養管理 2691施設(79.9%)	施設数(全施設数に対する割合)	1,684(50.0%)	2,096(62.2%)	1,652(49.0%)	244(7.2%)	162(4.8%)
	1施設当たりの実施者数(実人数)	6.14人	5.88人	6.11人	5.23人	6.43人
経鼻経管栄養 1259施設(37.4%)	施設数(全施設数に対する割合)	797(23.6%)	960(28.5%)	756(22.4%)	105(3.1%)	67(2.0%)
	1施設当たりの実施者数(実人数)	3.80人	3.60人	3.64人	3.39人	4.04人

②「胃ろうによる栄養管理、経鼻経管栄養」の所要時間、職員 の連携・協働の状況

- 「胃ろうによる栄養管理」、「経鼻経管栄養」に要する時間」に大きな差は生じていない。
- すべてのプロセスにおいて看護職が実施する割合が看護職が介護福祉士等の介護職と協働して行う割合よりも高い。
- プロセスのうち、「チューブ位置を確認し、栄養チューブに注入用容器を接続してから滴下開始まで」が、看護職員が実施している割合が一番高い。
- 所要時間では、「滴下が終了後、白湯等を流し、栄養チューブと注入容器の接続を外すまで」に約15分要している。

○プロセス毎の協働の状況と所要時間

プロセス	胃ろうによる栄養管理(n=2891)				経鼻経管栄養(n=1402)			
	所要時間 (分) 1人1回当 たり平均	① (%)	② (%)	③ (%)	所要時間 (分) 1人1回当 たり平均	① (%)	② (%)	③ (%)
注入食の準備を開始し、注入用容器に移すまで	4.7	49.9	14.1	25.0	4.1	50.4	12.5	24.6
準備した場所から、注入を実施する場所までの注入食の運搬し、体位を整えるまで	4.1	49.3	16.2	26.9	3.8	51.5	14.1	26.7
チューブ位置を確認し、栄養チューブに注入用容器を接続してから滴下開始まで	3.6	56.2	14.1	22.7	3.5	59.6	11.7	21.8
観察時間※2								
滴下が終了後、白湯等を流し、栄養チューブと注入用容器の接続を外すまで	15.5	50.3	16.2	26.0	14.9	50.5	14.3	27.8
体位を整え、注入用容器の回収から容器の洗浄が終了するまで	7.7	46.4	16.5	27.9	7.4	46.4	14.8	29.8

※ ①看護職員のみが実施 ②看護職員＋介護福祉士で実施 ③看護職員＋介護福祉士＋その他の介護職員で実施

※2 一般的に観察時間(注入時間)は10分～2時間程度